

高等学校における特別支援教育 (Special Needs Education)

# Classes with S. N. E

～個が輝くから、皆が輝く～

第4号 (平成23年8月)

発行 広島県立庄原特別支援学校支援センター 電話 (0824) 72-5111

メール soudan@shobara-sh.hiroshima-c.ed.jp

高等学校における特別支援教育 (Special Needs Education)

『Classes with S. N. E～個が輝くから、皆が輝く～第4号』のページを開いていただき、ありがとうございます。今年度も、高等学校への訪問相談や研修を実施させていただいております。その際、対人関係でトラブルになったり、提出物が出せなかったりする生徒についての御相談がありました。今号では、日常でできる支援実態把握の方法を、御紹介させていただきます。御参考になれば、幸いです。

また、10月4日(火)に「平成23年度三次地区県立学校特別支援教育コーディネーター等研修会」を実施いたします。高等学校における特別支援教育に関する情報交換やネットワークづくりができればと思います。要項はホームページからダウンロードできます。

この通信や支援センターに関するすることなど、御不明な点は、お気軽にお問い合わせください。

## 1 トラブル防止の実態把握の方法例

授業中にいきなり叫んで他の生徒とトラブルになったり、急に固まってしまい活動が進められなくなったりするなど、行動面で課題が見受けられる生徒への支援に悩んでいるとの声をお聞きします。

トラブルを減らしていく指導を行うためには、問題となっている行動そのものに働きかけるのではなく、トラブルの事前のきっかけ(誘引)と周囲の事後のかかわりから見直す方法が、有効であると言われます。

下の例のような行動分析シートを作成し、①から④は授業担当者が記入し、⑤及び⑥は、校内委員会で検討するなどが考えられます。また、どのような行動に対して支援を行なうかについて、関係者の視点がブレないように、あらかじめ、改善を図りたい行動を具体的に定義するのがポイントです。

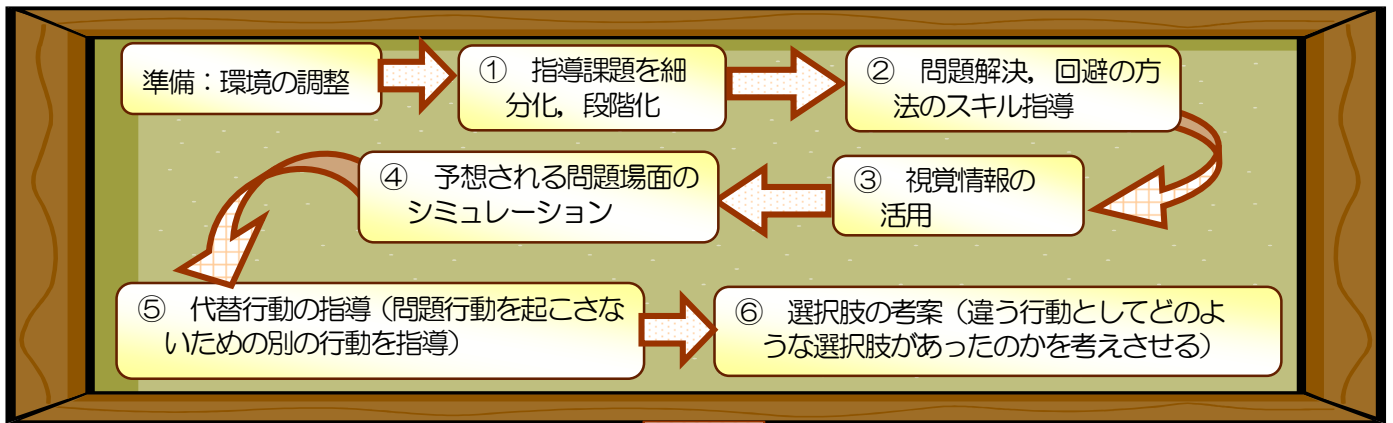
**行動の良い定義例**—「**始業のチャイムを聞いても着席しない**」

**不十分な例**—「**時間の観念がない**」「**友だちとのかかわりがうまくできない**」



校内委員会用 特別支援教育 行動分析シート (記入例)

学科・学年・組・生徒氏名		担任氏名		ケース会議参加者		
支援の方針 困った時の対処スキルを獲得させ周囲とのトラブルを減らす (いきなり叫ぶことに絞って検討する。)						
日時 教科	①行動のきっかけ	②本人の行動	③事後の対応	④結果	⑤想定できる行動の背景	⑥授業の改善案
〇/〇 国語科 (例)	〇 当てられて困った様子を他の生徒が揶揄した。	〇 「静かにしろ!」といきなり叫んだ。	〇 すぐに、叫ばないように指導した。	〇 余計に興奮した。	〇 他の声や音などが耳に入り、集中しにくい、聞き落としやすい。 〇 困った時にどうしてよいか分からず、混乱する。	〇 静かな状況をつくったり、板書に教科書の頁数を明記する。 〇 困った時の対処法を考えさせる。



### 提出物が出せない場合の支援例

準備：環境の調整：提出物を出す箱を決め、見えやすい位置に場所を決めて置く。  
（指導者によって、提出場所が変わらないように、分かりやすくする。）

① 指導課題を細分化、段階化：課題の量を減らし、少しでも提出する習慣を付ける。

② 問題解決、回避の方法のスキル指導：提出物ファイルなどを決める。援助依頼スキルを指導する。

③ 視覚情報の活用：提出物リストを作る。出したら、線で消す。

④ 予想される問題場面のシミュレーション：困った時にどうなるかを考えさせ、取るべき行動をあらかじめ紙に書く。（「黙ったまま過ごす」は×、など）

⑤ 代替行動の指導（問題行動を起こさないための別の行動を指導）：宿題が難しいなど提出に自信がもてない場合、あらかじめ、担任に申し出るよう指導する。

⑥ 選択肢の考案（違う行動としてどのような選択肢があったのかを考えさせる）

「友達の誘いが断れず宿題ができない。」、「テレビに時間を取られ、机に向かえない。」などの場合も含め、どのような対応ができるか考えさせる。

参考：岩手県立総合教育センター：「中学校・高等学校における特別支援教育校対林確立の手引き」「問題行動指導の手引」

これらを個別の指導計画等に反映させると、組織としての取組が明確になり、継続しやすくなります。第3号に個別の指導計画作成に関する内容を掲載させていただいております。

### 【個別の指導計画（記入例）（平成〇〇年度）】

○立さくら学校第2学年A組 6番 庄原 かつこ 平成23年4月15日記入 記入者：担任 広島 もみじ				
今年度の目標	自分の苦手なことを理解し、うまく対処できる方法を増やす。			
1学期	実態	目標	支援内容・方法等	評価
学習	○ 苦手な教科の単位修得が心配される。 ○ 板書が写せない。	○ 全ての教科の単位を修得する。 ○ ノートを確実に写す。	○ 小テストを多く行い、定着状況を把握する。 ○ 書く時間を設定する。	
社会性・コミュニケーション	○ 場面に応じたあいさつの言葉が言えない。	○ 自発的に場に合ったあいさつが言える。	○ 本人に「場面とことば辞典」を作るよう指導する。	
生活面	○ 忘れ物が極端に多く、自信がない。	○ 忘れ物がなくなり、自信をもつ。	○ かばんの裏に、持ち物リストを貼る。	
国語科	○ 漢字が定着しない。	○ 新しく〇語覚える。	○ 意味を付けて説明する。	
体育科	○ 苦手意識が強い。	○ 好きな種目を作る。	○ 活動を複線で用意する。	

今号も最後までお読みいただき、ありがとうございました。

内容等に関するお問い合わせは、広島県立庄原特別支援学校支援センター 電話 (0824) 72-5111 メール soudan@shobara-sh.hiroshima-c.ed.jp まで、お寄せいただければ、幸いです。